

槐

かい

岡井省二 創刊

令和4年10月号



着地点

高橋将夫

真つ直ぐに芯の通つたねじれ花
逝く夏や余命を計る鯨尺
風鈴が聞こえぬほどに集中す
天牛の触角愛を感じせり

まひまひが描く女体の曲線美
艶の肌そこが取り柄の百日紅
群れ鰯どこにでもゐるはぐれ者
万葉の色に染まりし古簾
連発の花火が作る真の闇
蛭見て光は曲線かと思ふ
玉虫が見極めてをる

日月抄

高橋将夫 推薦

水	蝠	晩	鬼	繕	真	墨	ぼ
芭	蝠	節	や	へ	夏	を	う
蕉	は	の	ん	ぬ	の	も	ふ
心	洞 ^が	未	ま	ほ	夜	て	り
変	窟 ^マ	知	愛	こ	二	大	や
り	の	な	を	ろ	つ	滝	い
を	悲	る	伝	び	の	白	つ
包	哀	力	へ	あ	生	く	か
容	を	苔	に	ま	が	描	世
す	凝 ^{みつ}	の	行	た	交	か	に
	視 ^め	花	く	雲	差	る	出
	た		と	の	す	る	る
			こ	峰	る		時
			ろ				を
							待
							つ
阿	出	阪	久	時	中	中	柴
部	利	倉	保	澤	西	島	田
さ	葉	孝	夢		厚	昌	靖
ち	孝	子	女	藍	子	子	子
よ							

梅雨晴間どんより重き大樹なる

中貞子

洗礼のごと青柿の雨滴受く

橋本順子

ひとしきり言ひたきことをソーダ

水井上静子

雷鳴や地上の音をかき消して

竹村淳

なぞなぞのとけてゆきたる花氷

柳橋繁子

夏茅屋根つこありそな外梯子

岡田桃子

海亀はひれを翼に海の空

中田光介

死ぬ死ぬと言ひし人生き冷奴

孫野秀子

汗臭き男のサーブ打ち返す

亀元悦子

槐集

高橋将夫選

岡崎 柴田 靖子

ぼうふりやいつか世に出る時を待つ
夏の蝶とどまれば陽射しに焼かる
夏雲のごと言の葉の湧き出でよ
混沌たる世相あむかに蜘蛛の糸
老いつつも明日の光を夏の夢
風入れや母の見立てし物ばかり
大楠の影に重さのありにけり
墨をもて大滝白く描かるる
プラチナの緞帳となり滝落つる
病みゐたる大きな背ナに天瓜粉
真夏の夜二つの生が交差する
過去からの声が聞こえる酷暑の夜
非対称な真夏の昼と夜の顔
炎昼や私は生きているんだな
落雷が人事も生も焼き尽くす

枚方 中島 昌子

守口 中西 厚子

繕へぬほころびあまた雲の峰

福井 時澤 藍

恐ろしき世にもさわさわ青田風

橋一つ越えて夕立おさまりぬ

夏座敷女ばかりの笑ひ声

通さねばならぬ意地あり笹竜胆

グラジオラス己が重さに傾ぎけり

鬼やんま愛を伝へに行くところ

蟬じんじん紆余曲折は後回し

雲の峰梯子探してをるところ

影となり固まりとなる夜釣かな

大賀蓮の命澄みける湖水かな

老楽の身心共にお風入れ

山彦の緑したたる誘ひあり

万緑の真只中に眠りたき

晩節の未知なる力苔の花

枚方 阪倉 孝子

竹原 久保 夢女